

## 非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について

前田美和子\*, 加藤 美帆\*\*, 榎崎久美子\*\*\*, 田中 沙織\*\*\*\*

(2017年1月15日 受理)

### On the Possibility of Improving Non-Cognitive Skills as an Outcome of the Education Based on the Principles of Christianity

Miwako MAEDA\*, Miho KATOU\*\*, Kumiko NARAZAKI\*\*\*, Saori TANAKA\*\*\*\*

This research aims to explain that the “Chapel Hour” in HJU has a certain educational significance, and to help finding out an effective method for building up the mind of future “Christianity education” (i.e. education on the basis of the principles of Christianity), as well as the mind of nursery care for kids through Christianity.

We made an analysis on the comment sheets written by the students who attended the “Chapel Hour” class during the spring semester 2016. After picking up the frequent words which appeared more than 30 times in the comments, and setting the names of every department as the index words, we drew a co-occurrence network picture using a text mining software. Then, we made the following interpretations on the extracted from the network, referring to the context in regard of their preceding and succeeding words according to the KWIC concordance results:

Students of every department seemed to realize that they “could know” or “could see” something at Chapel Hour, and got the feeling that they would like “to do” or “to be” something. Besides, every analytic results on each department gave its characteristic features: students in the Department of Liberal Arts often became well aware of their “present” state of mind, while in the Department of Fashion and Architectural Design, students were apt to be moved by the “words”. In the Department of Nutrition and Health Promotion, students tended to see “problems” in the human world, and students of the Department of Child Education and Psychology often referred to the “fear”.

As a result, this research suggests that the “Chapel Hour” in HJU not only gives a personality growth on the basis of Christianity, but also would possibly contribute to the upbringing of the students as it improves non-cognitive skills: Self-perceptions, Social competencies, Motivation, Creativity and Meta-cognitive strategy.

**Keywords:** Non-Cognitive skills 非認知能力, Christianity Education キリスト教主義教育, Text Mining テキストマイニング

#### 1. はじめに

本学はキリスト教主義の女子教育を掲げ、1886年に広島女学会として創立した。「CUM DEO LABO-RAMUS (われらは神とともに働く者なり)」を建学の精神に教育を施し、女子の霊性、知性、徳性の発達、広い教養、高い人格の上に、専門的な学術の修得を目指すものである。その中において本

---

\* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科専任講師

\*\* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授

\*\*\* 広島女学院大学人間生活学部生活デザイン・建築学科准教授

\*\*\*\* 広島女学院大学人間生活学部幼児教育心理学科准教授

学科は、キリスト教主義にもとづく人間教育の理念を基礎とし、キリスト教保育をうたった保育者養成校である。しかし、入学する学生はそのほとんどがノンクリスチャンであり（前田ら, 2016）、入学後からキリスト教精神の学びを通じた人間力の育成を行っていくこととなる。その代表的な授業ともいえるのが、初年次の必修科目である「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」である。この授業のシラバスによると、1. 建学の精神について理解し自分のことばで表現できること、2. 他者理解・自己理解を広げ、深めることにより、寛容の精神に基づいた判断ができること、3. 「常識」や「定説」を疑い、独自の視点でものごとを捉えることができることをこの授業の到達目標としている。さらに、この授業は「キリスト教の時間」という、本学のキリスト教教育活動の中心に据えている教育プログラムとの連携も図り、通年で開講している。「キリスト教の時間」は、視野を広げ考え行動できるようなキリスト教の基盤に立つ女性教育、平和と人権教育、情操教育等を含む総合的教養・人格教育を目指して（『広島女学院この10年の歩み』, 2006）、様々な講師を招聘し、毎週火曜日の13時から13時45分までの45分間で展開している。また全学生が出席出来るよう、全学で授業や会議等を行わず時間の確保が配慮されている唯一の教育プログラムである。

幼児教育心理学科において「キリスト教主義教育及びキリスト教保育の精神に触れることができた機会」について学生に問うたところ、1位に「キリスト教の時間」、2位にキリスト教に関連する授業<sup>1)</sup>であり（前田ら, 2016）、このように「キリスト教の時間」が、本学の建学の精神や人間力の育成に大きく寄与していると考えられる。しかしこれまで、この「キリスト教の時間」を受講することにより、入学したばかりの学生が何を学び取っているのかについて、知識以外の人間力、いわゆる非認知能力との関連性から明らかにしたことはなかった。よって本研究では、「キリスト教の時間」の教育的意義を明らかにするとともに、今後のキリスト教主義教育、ひいてはキリスト教保育の精神の獲得のための一助としたい。

## 2. 研究方法

学生が「キリスト教の時間」を通してどのような学びを得ているのかについて明らかにする足がかりとして、2016年の春学期期間中に「キリスト教の時間」で毎回提出されたコメントカードの内容について、テキストマイニングソフトによる分析を行った。「キリスト教の時間」は2016年4月～7月までの期間、毎週1回、全15回行われた。各回の内容および出席者数と提出されたコメント数および割合は表1に示した。

分析には、コメントカードの内容を原文のまま入力したテキストデータを使用した。なお、テキストデータは、コメントカード原本との照合を行い、内容の欠落など原本との不一致があれば修正を行ってから使用した<sup>2)</sup>。なお、「カンボジア」を「カンンボジア」と表記しているなど明らかな表記ミスは修正し、主に人物や団体名などを指した語については「先輩達」「先輩たち」「先輩方」など同じ意味内容で揺れが見られたものはそのうち最も頻度の高かった表記に統一するなど、データクリーニングを行ってから使用した。なお、これらは原文の内容の改変となることを避けるため最小限にとどめた。また、テキストマイニングソフトは、KHcorder (ver. 2.00f)<sup>3)</sup>を使用した。

## 3. 結果および考察

まず表1に基づき、各学科の15回の平均コメント率を図1に示した。全体としては、出席者の3

非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について

割程度が毎回コメントを提出していることがわかった。

テキストマイニングの結果2,239語が抽出され、このうち出現数30以上の頻出語について、順位および出現数を表2に示した。出現数30以上の頻出語を用いて、未知語として抽出されたもの等を除いて、段落単位で各学科を見出し語として共起ネットワークを描いたところ、図2のような結果が得られた。「思う」「する」「知る」「なる」「ある」「聞く」「できる」「話」「とても」「自分」は、全学科に共通して共起していた。また、「感じる」は、幼児教育心理学科、生活デザイン・建築学科、国際教養学科の3学科で、「考える」「分かる」「大切」「すごい」は幼児教育心理学科および国際教養学科の2学科で、「お話」は幼児教育心理学科および管理栄養学科の2学科で、「歌う」「良い」は

表1 各学科による「キリスト教の時間」の出席率およびコメント率(%)

内 容	国際教養学科 (在籍者数536名)				生活デザイン・建築学科 (在籍者数217名)				管理栄養学科 (在籍者数300名)				幼児教育心理学科 (在籍者数346名)				合計 (在籍者数1399名)								
	出席者数	出席率 (%)	出席者のコメント数	出席者のコメント率 (%)	出席者数	出席率 (%)	出席者のコメント数	出席者のコメント率 (%)	出席者数	出席率 (%)	出席者のコメント数	出席者のコメント率 (%)	出席者数	出席率 (%)	出席者のコメント数	出席者のコメント率 (%)	出席者数	出席率 (%)	出席者のコメント数	出席者のコメント率 (%)					
	全体	1年生 (110名)	全体	全体	全体	1年生 (56名)	全体	全体	全体	1年生 (81名)	全体	全体	全体	1年生 (82名)	全体	全体	全体	1年生 (328名)	全体	全体					
第1回 讃美歌を歌おう	118	92.7	22.0	43	36.4	56	96.4	25.8	24	42.9	100	97.5	33.3	12	12.0	82	95.1	23.7	29	35.4	356	95.4	25.4	108	30.3
第2回 ゲーンズ記念礼拝「校母ゲーンズ先生」	114	90.9	21.3	53	46.5	65	100.0	30.0	17	26.2	101	100.0	33.7	13	12.9	88	100.0	25.4	30	34.1	368	97.3	26.3	113	30.7
第3回 春学期主題解説「大人になるといこと」	111	89.1	20.7	59	53.2	62	92.9	28.6	22	35.5	101	96.3	33.7	11	10.9	84	96.3	24.3	38	45.2	358	93.6	25.6	130	36.3
第4回 小さい者を大切に	105	84.5	19.6	51	48.6	62	94.6	28.6	13	21.0	94	86.4	31.3	8	8.5	84	93.9	24.3	32	38.1	345	89.3	24.7	104	30.1
第5回 カンボジアスタディツアー報告	118	91.8	22.0	61	51.7	63	98.2	29.0	14	22.2	103	100.0	34.3	7	6.8	85	98.8	24.6	32	37.6	369	97.0	26.4	114	30.9
第6回 ハミガキするように社会のことを考えよう	106	83.6	19.8	58	54.7	60	89.3	27.6	10	16.7	91	96.3	30.3	14	15.4	75	86.6	21.7	30	40.0	332	88.7	23.7	112	33.7
第7回 とりの人として	108	86.4	20.1	42	38.9	64	98.2	29.5	9	14.1	93	86.4	31.0	3	3.2	78	89.0	22.5	29	37.2	343	89.3	24.5	83	24.2
第8回 福島の今から見えてきたもの-変化の中で生きる	92	71.8	17.2	46	50.0	50	69.6	23.0	7	14.0	83	75.3	27.7	8	9.6	78	90.2	22.5	28	35.9	303	77.1	21.7	89	29.4
第9回 あなたを待つ世界	91	77.3	17.0	45	49.5	38	55.4	17.5	11	28.9	77	66.7	25.7	11	14.3	67	78.0	19.4	12	17.9	273	71.3	19.5	79	28.9
第10回 沖縄「慰霊の日」に祈る、歌う、踊る「沖縄の現状と課題」、「沖縄の歌と踊り」	80	64.5	14.9	52	65.0	34	44.6	15.7	10	29.4	80	70.4	26.7	4	5.0	61	69.5	17.6	25	41.0	255	64.0	18.2	91	35.7
第11回 私たちからのメッセージ-学生ボランティア活動報告	69	57.3	12.9	36	52.2	35	42.9	16.1	16	45.7	80	71.6	26.7	8	10.0	80	92.7	23.1	33	41.3	264	67.4	18.9	93	35.2
第12回 第50回原簿講座-8.6の意味するもの(第1回)「被爆電車の車掌を務めて」	99	78.2	18.5	52	52.5	51	73.2	23.5	14	27.5	98	96.3	32.7	5	5.1	78	90.2	22.5	39	50.0	326	85.1	23.3	110	33.7
第13回 第50回原簿講座-8.6の意味するもの(第2回)「被爆証言」	96	78.2	17.9	47	49.0	45	64.3	20.7	8	17.8	91	90.1	30.3	9	9.9	66	75.6	19.1	30	45.5	298	78.4	21.3	94	31.5
第14回 ミッションスクールで出会ったキリスト教	77	60.0	14.4	23	29.9	20	23.2	9.2	3	15.0	87	82.7	29.0	2	2.3	45	50.0	13.0	14	31.1	229	57.0	16.4	42	18.3
第15回 今学期を振り返って	66	50.9	12.3	28	42.4	4	7.1	1.8	1	25.0	75	66.7	25.0	4	5.3	52	61.0	15.0	21	40.4	197	50.0	14.1	54	27.4

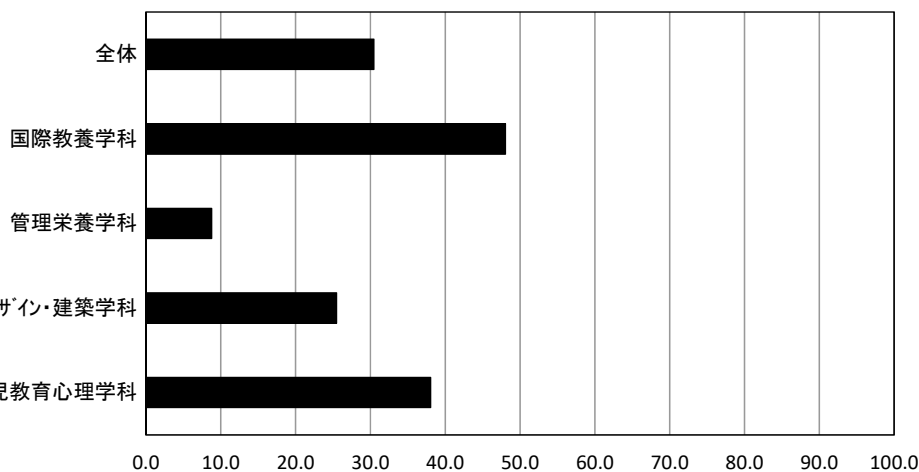


図1 平均コメント率 (%)

表2 頻出語一覧

順位	抽出語	頻度
1	思う	737
2	する	570
3	ない	519
4	知る	278
5	ある	264
6	とても	228
7	なる	221
8	聞く	209
9	話	199
10	できる	184
11	人	172
12	分かる	146
13	自分	145
14	考える	137
15	すごい	121
16	母	99
17	今	97
18	いう	94
19	歌	93
20	お話	90
21	感じる	88
22	大切	86
23	良い	79
24	改めて	75
25	言葉	74
25	沖縄	74

順位	抽出語	頻度
27	良い	72
27	心	72
29	ボランティア	70
30	ない	68
31	今日	67
32	初めて	65
33	賛美歌	63
34	戦争	59
35	参加	58
35	美しい	58
35	よい	58
38	キリスト教	56
38	いる	56
40	歌う	55
40	開ける	55
40	少し	55
43	時間	53
44	もっと	53
45	たくさん	51
46	貴重	50
47	怖い	48
48	学ぶ	47
48	本当に	47
50	いい	46
50	よい	46
52	原爆	45

順位	抽出語	頻度
53	大人	44
53	カンボジア	44
55	出来る	43
56	見る	42
57	ゲーンズ先生	41
57	澤村先生	41
57	驚く	41
60	意味	40
60	持つ	40
60	わかる	40
63	世界	37
63	これから	37
65	歌声	36
66	日本	35
67	カルト	34
67	気持ち	34
67	楽しい	34
70	興味	33
70	生活	33
70	平和	33
70	前	33
70	しっかり	33
75	歴史	32
75	問題	32
75	生きる	32
78	実際	31
78	やる	31

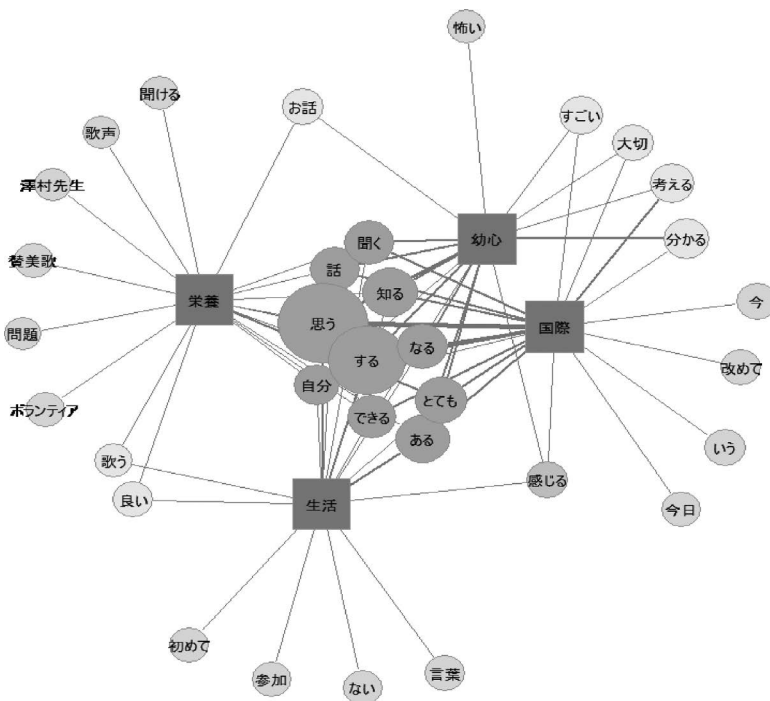


図2 共起ネットワーク図

生活デザイン・建築学科および管理栄養学科の2学科で、共通して共起していた。それぞれの学科で特徴的な語として、幼児教育心理学科では「怖い」が、生活デザイン・建築学科では「初めて」「参加」「ない」「言葉」が、管理栄養学科では「ボランティア」「問題」「賛美歌」「澤村先生」「歌声」「聞ける」が、国際教養学科では「今」「改めて」「いう」「今日」が見られた。

それぞれの語についてKWIC コンコーダンスを行い、抽出された前後の文脈を確認して解釈を行った。その結果、いずれの学科でも「知ることができた」「聞くことができた」という実感を得ており、「～したい」「～なりたい」といった思いを抱くに至ったことがうかがえる。また、管理栄養学科を除く3学科では、コメントに自分が「感じ」たことへの言及が多いことがわかった。

学科ごとの特徴としては、国際教養学科では、「今日」の話をきっかけに「改めて」思い、感じ、考えていることがうかがえ、「今」を強く意識している傾向がみられたことが特徴的であった。

生活デザイン・建築学科では、「言葉」に心動かされていることがうかがえた他、ボランティアへの「参加」の体験や希望の言及が特徴的であった。自身の体験に思いをはせつつ、理解しようとしている傾向があるものと考えられた。

管理栄養学科では、ボランティアへの関心や、カルトや原発、飢餓・貧困など世の中の「問題」に目を向けようとする姿勢と意欲と性格的な特性がうかがえた他、「澤村先生」による歌や賛美歌など言葉ではなく、五感を通して感じるものに心動かされていることが特徴的であった。後者については、チャプレン職にあり、管理栄養学科の「キリスト教入門Ⅰ・Ⅱ」の担当教員である澤村雅史准教授が、ギターをもって講壇で歌ったことが強く印象づけられたと考えられることに加え、日頃から「食」という五感が重要な領域を扱っていることによるものと考えられた。

幼児教育心理学科では、戦争や原発（第12回、13回）、東日本大震災・原発（第6回、8回）やカルト問題（第4回）を扱った回でのコメント率が高くなり（表1）、コメントの特徴として恐怖への言及があった。幼児教育の学びの性質上、社会のポジティブな側面や明るい側面に注目する傾向があるため、負の側面に向き合う体験となって強い印象を残しているものと考えられた。また、全体的に他学科に比べ講話に共感するコメントが多い傾向にあった。

ところで新キリスト教保育指針（2014）にはキリスト教保育のねらいの一つに「子どもが自分自身を大切なひとりとして受け入れられていることを感じ取り、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れるようになる」ことが立てられている。このことから森は、キリスト教保育の基本は「共に生きる場」の提供であり、「共に育つ経験」を大切にして、「共に生きる歩む日々」を通して、「共に深める理解」を重ねていくことであるという（森、2013）。「キリスト教の時間」は女性・世界・平和・人権などのテーマについての講演を通して理解を深め、隣人を自分のように愛する隣人愛の精神の体現を目指す。前述のとおり幼児教育心理学科の学生は全体的に共感するものが多くみられる傾向にあった。特に幼児教育心理学科の学生の特徴であった「怖い」からは、戦争や原発、東日本大震災や原発事故によって大切な者や物の喪失体験や避難など、人々の暮らしが一変した様子や、悲惨な状況に共感するものや、困難な経験を想起し語られる苦しさで共感するコメントが見受けられた。紙面の関係上すべてを提示することは難しいが、以下、特徴的なものをいくつか紹介する。たとえば「改めて震災の大変さが分かった。今でも苦しんでいるかと思うと心が痛くなる。」（第8回）、「ゆっくり当時のことを思い出されながらお話してくださいました。姉との楽しかったという思い出を聞いて、心が温まりました。」（第12回）、「話を聞くだけでも辛かったのにお話をしてくださった

方は、もっと辛いんだろうなと心が苦しくなりました。広島で生まれ育ったからには、このような被爆体験を受け継いでいかないといけないと思いました。「本当にこの体験をされたと思うととても怖い気持ちになりました。」「聴いていて恐くなる位リアルでした。けど目を背けてはいけなかった。」(第13回)などがあった。さらにこのような共感から、「私も自分から進んで動く人になりたい。」(第6回)、「自分から興味を持って関わって知ろうと思う。再び原発の話がでてきて原発の話がすんなり入ってきました。もっと意識しないといけないと思った。」『復興に時間がかかるのに、人々の関心がすぐにさめる』ということは切ないので、しっかり支援していきたいと思いました。(第8回)、「平和である有り難みを改めて認識することが出来た。私たちが聞いた事をまた後世に伝えたい。」(第12回)、「野村さんも思い出したり話したりするのがとても辛かったと思うけど、詳しくたくさんの事を伝えていただいで生き残った1人としても言い残したいことを伝えていただき、お話を聞かせて頂いた自分たちがここで止めてしまっはいけないと思いました。聞いた話をしっかり発信して伝えていきたいと思いました。」(第13回)といった、メタ認知ストラテジーや意欲向上につながるコメントもあった。ここから、森が述べる共に生き、理解を深めようとするキリスト教保育の基本姿勢の育成もうかがい知ることができた。また、ほかのコメントからも自らの自己認識や社会的適性の獲得、創造性といった非認知能力の育成につながると思われるものがあった。

以上のことから今回、「キリスト教の時間」後に書かれたコメントカードの自由記述を、幼児教育心理学科のものを中心に分析したところ、自らの自己認識<sup>4)</sup>や社会的適性の獲得<sup>5)</sup>、意欲向上<sup>6)</sup>、創造性<sup>7)</sup>、メタ認知ストラテジー<sup>8)</sup>といった非認知能力を育成する可能性について示唆された。

#### 4. まとめ

近年、非認知的能力を幼児期に身に付けることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせるといった研究成果から、幼児教育の重要性の認識が高まっている(文部科学省, 2016)。また、認知能力には年齢的な閾値が存在しているが、非認知能力は成人後まで可鍛性のあるものも少なくない(中室, 2013)ことも明らかになってきている。非認知能力とは、IQや学力テストで計測される認知能力とは違い、「忍耐力がある」「社会性がある」「意欲的である」といった人間の気質や性格的な特徴のようなものを指す(中室, 2013)。この非認知能力は、中室によると「学歴・年収・雇用などの面で子どもの人生の成功に長期にわたる因果効果を持ち」、「教育やトレーニングによって鍛えて伸ばす」ことができると述べている。近年では部活動や課外活動、社会奉仕活動のような学んだことを地域社会で問題解決のために活かすような教育やアウトドア活動なども有効であると言われている。つまり、人間がより豊かな人生を切り開いていくためには、教育現場において知識を注入することのみならず、生涯にわたって人間力の育成に注力していく必要があるといえる。

なお、今回は学生自身が認知した「キリスト教の時間」の講話を通して得られたものに関する分析から、非認知能力の育成に関するある程度の示唆が得られたが、「キリスト教の時間」には講話以外にも教育的に重要な要素が含まれている。

「キリスト教の時間」は一般的にいう講演会と異なり、黙想・前奏曲にはじまり、学校付牧師であるチャプレンか宗教主任先導による自由祈祷、聖書朗読、讃美歌などキリスト教の礼拝形式に則って進められている<sup>9)</sup>。また「キリスト教の時間」では着席時に後から来る人のために、座席を奥から詰めて着席するなど、聴講のマナーの指導も行っており、ここからは共に生きる場としての社会

的適性や自制心<sup>10)</sup>が培われることが期待される。この自制心は繰り返し継続して行うことで高めることができる(中室, 2013)。

こういった「キリスト教の時間」の講話以外の側面にも学生たちに及ぼす教育的意義は大きいことが期待され、それらについて明らかにすることを今後の課題としたい。

## 註

- 1) 2016年度開講授業のうち、科目名にキリスト教と付した科目は共通基礎科目2科目、共通教養科目4科目であった。科目名にキリスト教と付さなくともキリスト教の行事などを扱って展開された授業もあるが、この調査においては科目名を明記していなかったため、どの授業を指しているか判別はつかない。
- 2) 第7回目と第14回目については、入力されたテキストデータのみで、コメントカードの原本については保管されていなかったため、原本との照合作業は行うことができなかった。
- 3) テキストマイニングとは、コンピューターによってデータの中から自動的に言葉を取り出し、さまざまな統計手法を用いた探索的な分析を行う(樋口, 2014)手法である。
- 4) 中室(2015) p. 87によると、非認知能力のうち、自己認識とは「自分に対する自信がある、やり抜く力がある」と説明されている。以下5) 6) 7) 8) 10) は同じ文献による説明である。
- 5) 社会的適性とは、「リーダーシップがある、社会性がある」と説明されている。
- 6) 意欲とは、「やる気がある、意欲的である」と説明されている。
- 7) 創造性とは、「創造性に富む、工夫する」と説明されている。
- 8) メタ認知ストラテジーとは、「リーダーシップがある、社会性がある」と説明されている。
- 9) 具体的には聖書朗読は講師の指示に従うか、学期ごとに定められている主題聖句が読まれることが多い。讚美歌は大学チャペルオルガニストである玉理照子氏による選曲で、半学期につき8曲程度選ばれ、1回の「キリスト教の時間」の中でその日のタイトルなどから玉理氏が2曲選んで歌われている。
- 10) 自制心とは、「意志力が強い、精神力が強い、自制心がある」と説明されている。

## 引用・参考文献

- 前田美和子, 田中沙織: キリスト教主義大学に在籍する学生のキリスト教保育に対する意識調査, 幼児教育心理学研究紀要(2), pp. 37-44, 2016
- 広島女学院120年史編集委員会: 広島女学院この10年の歩み, p. 122, 2006
- 社団法人キリスト教保育連盟: 新キリスト教保育指針, pp. 23-24, 2014
- 森眞理: 短期大学生のキリスト教との出会いとの対話: 保育者養成の充実と発展に向けた基礎研究, 立教女学院短期大学紀要(45), pp. 59-71, 2013
- 文部科学省: 幼児教育に関する調査研究拠点の整備に向けて(報告書), 幼児教育に関する調査研究拠点の整備に向けた検討会議, 2016
- 中室牧子: 「学力」の経済学, 2015
- 樋口耕一: 社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して, ナカニシヤ出版, 2014